

ロールプレイとシミュレーションを通して金融政策を学ぼう —自由化と国際化、情報化の中の金融—

(総授業時数：5時間)

実施学年、教科等

第1学年～第3学年 公民科「政治・経済」

単元の目標

- (1) 貨幣や金融の役割、制度の基本と原理を理解することができるようにする。
- (2) 現在進行している金融分野での変革の意義と動向をマクロ的に理解することができるようにする。
- (3) 金融政策における新たな動向を、ロールプレイやシミュレーションを通して理解することができるようにする。
- (4) 地域や情報化の中で変化する金融分野をミクロ的に理解することができるようにする。

学習の評価

- (1) 貨幣や金融の役割、制度の基本と原理に関心をもち、理解している。(ワークシート)
- (2) 現在進行している金融分野での変革の意義と動向を、経済全体の視野の中で理解している。(ワークシート)
- (3) 体験的な学習と資料分析を通して、金融政策の新たな動向を理解している。
(ワークシート・アクティビティへの参加)
- (4) 地域や情報化の中で変化する金融の動向の理解を踏まえて、生活を振り返ることができている。
(ワークシート)

展開の特色

- (1) 学習内容の面では、学習指導要領の中の金融学習の中核部分である金融や金融制度、金融政策に関する部分に注目した学習と、自由化や国際化、情報化の中で急速に変化しつつある新しい金融政策の分野にスポットをあてた学習プログラムの開発を目指している。
- (2) 学習活動の面では、いずれの授業時間も可能な限りロールプレイ、シミュレーション、リサーチを入れて、生徒が参加しながら理解を深める方法を目指すとともに、通常では見えないお金の流れを見える形にして金融に対する理解を深めさせることを目指している。

「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目

Aーウ、Bーア・イ・ウ・エ

学習内容のキーワード

貨幣、預金通貨、金融機関、間接金融・直接金融、金融政策、日本銀行、金融市場、利子、地域通貨、電子マネー

● 指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(資料等)
1	1. お金を知る(貨幣とは) ・貨幣の役割について、シミュレーションを通して理解させる。 ・貨幣という身近なものから、通常では見えないお金の流れに着目させて、金融に対する理解を深めさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・お金がなかったらどうなるかの質問を考えることで貨幣の役割に気付く。 ・一つのお金が、交換手段だけでなく価値尺度、蓄蔵手段など様々な機能をもっていることを、質問に回答しながら確認する。 ・現金以外に預金通貨という捉え方があることを、マネーサプライという概念とともに理解する。 ・お金が足りなかったり、余った場合にどうするかを考えることを通して金融の役割と意義を理解する。 	◆貨幣の交換手段としての役割を理解させるために「物々交換と貨幣のシミュレーション」(『金融教育ガイドブック』所収)を行う。	★講義とシミュレーションを併用する。条件が許せば、課外で貨幣博物館の見学、日銀HPによるリサーチなども行う。 ★実物をできるだけ用意する。ハイパーインフレ時の写真、貨幣のレプリカなども用意する。	・現代文での評論学習(例えば岩井克人『ヴェニス商人の資本論』など)とリンクするように配慮する。
2	2. お金を扱う(金融機関とその役割) ・銀行だけでなく、証券会社なども含めて様々な金融機関の種類と性格、扱っている金融商品の内容を理解させる。 ・間接金融から直接金融への変化、また銀行だけでなく生保などがお金を扱う組織として活動していることに気付かせる。 ・あわせて、中央銀行の成立と役割について整理させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・お金を扱う機関にはどんなものがあるかの質問に答えながら、金融機関についての知識を整理する。 ・金融機関には、銀行、郵便局などお金を預かる機関だけでなく、証券会社、生命保険や損害保険の会社も広義の金融機関になることに気付き、それらが扱っている各種の金融商品についての興味や関心をもつ。 ・特に、銀行に関しては決済機能と金融仲介機能があることを理解する。 ・間接金融、直接金融ということばの定義と、間接金融から直接金融へのシフトという近年の動向とその背景を理解する。 ・お金を最終的にコントロールする組織としての中央銀行の存在に気付き、その成立と役割を歴史的に整理する。 	◆金融機関の中の中核である銀行の決済機能と金融仲介機能を押さえるとともに、金融機関は銀行だけというイメージを打破して、お金を扱う機関として広く捉えさせることで、間接金融から直接金融への流れなど、現代金融の動向を理解させるようにする。	★講義とリサーチを併用する。銀行のHPなどを参照させて金融機関がどのような経営活動を行っているかを調べさせる。 ★日銀、銀行、証券など金融機関の専門家を教室に呼んでコラボレーション授業を試みることもよい。	・日本史・世界史の授業内容とリンクするように配慮する。
3 本時	3. お金をコントロールする(金融政策の実際) ・近年の日本銀行の金融政策が公開市場操作中心になっていること、およびその変化の背景を理解させる。 ・中央銀行が行っている金融政策の役割とその推移と現状を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本銀行の役割を質問に答えながら整理し、理解する。日本銀行の金融政策について教科書の記述をもとにまとめる。それが実際にどのように運営され、効果をあげているか、経済指標のデータを踏まえた日銀の政策委員会のロールプレイを通して理解する(アクティビティ1)。 ・あわせて、シミュレーションを通じて、オープンマーケットオペレーションの仕組みと、短期市場における利子の動きが経済に与える影響を理解する(アクティビティ2)。 ・近年の日銀の金融調節の推移の中で変化したもの、変わらないものを理解する。 	◆いわゆる日銀の三大金融政策が現在は、金融調節という形でオペレーションを中心に変化していることをシミュレーションで確認する。 ◆金融調節の手段は変化しているが、物価の安定と経済の発展のために金融政策が行われていることは変化していないことを確認する。	★講義とロールプレイ、シミュレーションを併用する。ロールプレイやシミュレーションができるような生徒の配置、会場の確保、教材の用意を心がける。	・新聞の切り抜きなど、金融調節の最新の動向を示す資料を用意する。
4	4. お金を働かせる(利子、金融市場) ・外国為替市場も含めて、様々な金融市場の特色について理解させる。 ・お金を借りたり貸したりするとなぜ利子がつくのか、また利子の種類、性質、経済における役割を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・お金を借りるとどうして利子がつくのか、利子がなければどうなるかの質問を考えながら、お金を動かす原動力となる利子について理解する。 ・金利が高すぎたり、逆に法律や政策で決められたりするとどうなるかを、市場メカニズムの学習を踏まえて推定する。 ・お金を扱う金融市場の種類について前時でのコール市場も含め整理して、世界には様々な金融市場がひらかれていて、その動向が経済全体や家計にも影響を与えていることを認識する。 	◆教科書ではあまり扱われていない利子や金融市場に関して包括的に扱う。特に、外国為替市場での信用取引まで扱うことで、現実の金融の世界の動向を紹介する。	★講義とロールプレイを併用する。ロールプレイは信用取引での先物売買を実際に役割演技で行わせ、理解を深めさせる。 ★利子に関しては、複利・単利の計算だけでなく、利子の本質的役割を考察させる。 ★シミュレーションのための生徒の割り振り、関連資料などを用意しておく。	・数学での学習や国際経済の学習とリンクするように配慮する。また、利子の評価に関しては、倫理学習とも関連させる。

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(資料等)
5	5-1.(選択) お金を創る(地域通貨) ・近年注目されている地域通貨に関して、その理論と実際について学び、金融に関する現代の動向を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきたお金以外にお金はないかの質問に答えながら、もう一つの貨幣としての地域通貨に注目する。 学校の近くに地域通貨を発行している例があれば、そこを調査して、地域通貨の現状に関心をもつ。 その例がない場合は、インターネットなどでの調べ学習を通して関心をもたせ、地域通貨の理念や現実、可能性について討論する。 	◆もう一つの通貨である、地域通貨を扱う。地域の振興のために作られた一種の金券である地域通貨の評価は多様であるが、金融学習の中で一度は考察したい内容である。	<ul style="list-style-type: none"> ★講義と調査を併用する。地域通貨の考え方、実際の事例、地域通貨によって変化したものなどをインターネットや現地調査で調べさせ、その可能性を考察させる。 ★5-1か5-2を地域や学校のおかれている状況で選択する。 	・総合的学習、家庭科の学習とリンクするように配慮する。
	5-2.(選択) お金が進化する(電子マネー) ・同じく近年注目されている電子マネー、決済方法の技術革新などを学び、金融に関する現代の動向を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> 現金を使わないで決済をする方法についての質問に答えながら、急速に普及しつつある電子マネーの存在に気付く。 各種の電子マネーの特徴などを調査することを通して、これからの可能性を推定して、生活の中でどのような配慮が必要かを考察する。 	◆急速に普及しつつある電子マネーを取り上げ、現金がいなくなった世界について金融の立場から考察させる。	<ul style="list-style-type: none"> ★講義と調査を併用する。調査では、具体的な電子マネーの事例をケーススタディとして選び、その影響を調べ、金融全体や日常生活の中での変化を考察させる。 	・総合的学習、家庭科、公民科における消費者問題とリンクするように配慮する。

●本時の展開

本時の目標

- ア：日本銀行の三つの役割を理解することができるようにする。
- イ：日本銀行の行っている金融調節の推移と現状について理解することができるようにする。
- ウ：金融調節の中のオペレーションの実際をシミュレーションを通して理解することができるようにする。

	学習内容	●学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他
導入	<ul style="list-style-type: none"> お金を発行しているのはどこだろう？(前時の復習) 税金はどこに納められるのだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●お札の実物を見ながら、紙幣が日本銀行発行であることを確認して、日本銀行の発券銀行としての役割を復習する。 ●銀行の入り口などにある「日本銀行蔵入代理店」の看板の写真から、税金など政府に納められるお金は日本銀行が扱っていることを知り、日本銀行は政府の銀行の役割ももっていることを理解する。 	◆日本銀行の三つの役割の中の発券銀行と政府の銀行の役割の二つをまず提示する。	★前時までに、発券銀行の役割は学習しているので、それを踏まえる。	・紙幣の実物、銀行の入り口の写真などを用意する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 日本銀行に預金できるのはだれだろうか？ 「銀行の銀行の役割」を通して、日本銀行は経済全体にどんな影響を与えているのだろうか？ 金融政策を決定するのはだれだろうか？ どのような金融政策をとったらいだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●質問に答えることを通して、日本銀行に口座をもてるのは、政府以外には、市中の金融機関であることを理解する。 ●講義を通して、それを日本銀行の「銀行の銀行の役割」ということ、具体的には、各金融機関が日本銀行に当座預金をもち、そこを通して市中にお金が流れたり、戻ってきたりする仕組みを理解する。 ●教科書を読みながら、日本銀行の金融政策(公定歩合を上下させる、預金準備率を上下させる、オープンマーケットオペレーションを行うなど)を整理する。その目的が通貨の価値の安定、景気の調節であることを確認する。 ●金融政策の最高意思決定機関が、日銀政策委員会であることを知った上で、金融政策の中の金融調節に関する次のアクティビティに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本銀行の三つ目の役割、銀行の銀行の役割を提示する。 ◆日本の金融システムの中での日本銀行の役割を踏まえて授業を進める。 ◆いわゆる三大金融政策を整理するとともに、現在は、その中のオープンマーケットオペレーションが中心であることを明確にする。 ◆金融政策は大きな目標、金融調節は手段であるという違いを明確にして、現在の金融調節の目標がコール市場での金利誘導であることを認識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★中学校までの学習で得た知識を想起させる。 ★制度の説明はできるだけ簡単に済ませるようにする。 ★近年、変化が著しい領域なので、最新のデータや政策の変化をきちんとフォローしておく。 ★あらかじめ、生徒の役割を割り振っておく。 ★アクティビティは時間配分の都合でどちらか一つに絞ってもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本銀行のHP、金融庁のHPなどから金融関係の最近の動向に関する資料を確保する。 ・資料プリント、作業プリントを用意する。 ・アクティビティ用の小物も用意する。

アクティビティ1

資料のデータを踏まえて、どのような政策をとればよいかを検討する。現実には、日本銀行がとっている政策は何か、なぜそうなっているのかを整理する(金融調節の中のオペレーション)。

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

	学習内容	●学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他
展開	・金融調節ってなんだろう？その実際は？	アクティビティ2 オペレーションの実際はどうなっているだろうか、実際に試してみる（生徒は一般銀行役で、資料のような指示のもとでシミュレーションに参加する）。これらのアクティビティの意味するものを考察する。	◆金融自由化、不良債権問題の中で日本銀行が行ってきた金融調節の推移を整理しながら、その基底には金利を通して経済に影響を与えようとするものがあることを理解させる。		
まとめ	・現代の金融政策と日本銀行	●ここまでやってきたことが現実にどれだけあてはまっているかを、配付資料（新聞記事）で確認する。 ●日本銀行の役割と機能をまとめる。	◆中央銀行の金融調節の方法は変化してもその使命は変わらないことを提示する。	★本日の授業から発見できたものをレポートさせる。	・宿題にしてもよい。

アクティビティについて

<アクティビティ1>

政策委員会での資料の性格とその読み方

①名目および実質国内総生産の推移のデータ（実質経済成長率のデータ）

内閣府が発表する、国内の経済活動で生み出された付加価値総額である。名目国内総生産は物価変動を含む額、実質国内総生産は物価変動を含まない額である。経済成長率はこの実質国内総生産で計算される。生の数字をだすのではなく、教科書などに掲載されている実質経済成長率のグラフを利用してもよい。すでに国民所得の学習が済んでいる場合は、多少時間はかかるが、何年間かの実質経済成長率を実際に計算させて判断の材料とさせてもよい。

実質国内総生産が増加していない場合（経済成長率が低い場合やマイナスの場合）には何らかの政策で、経済が成長するように刺激を与えなければならない。その大まかな判断をさせるのに利用させたい。

②消費者物価指数および企業物価指数の変化

この二つは物価の変動を示す代表的な指標である。消費者物価指数は総務省が発表し、企業物価指数は日本銀行が発表する。消費者物価指数には、家計が購入する財やサービスの価格の変動が反映されるのに対して、企業物価指数には、企業間で取引される財やサービスの価格が反映される。これらの物価指数は「経済の体温計」とも呼ばれ、景気が良いか悪いかの判断の材料となる。日本銀行の金融政策でも重要指標の一つとされている。なお、データが多すぎる場合は、企業物価指数は省略してもかまわない。

③完全失業率の推移

総務省が発表する労働市場に関するデータである。経済指標としては遅行系列の指標となるので、経済成長率のデータとつき合わせて、現在がどのような景気の状態かを判断させるとよい。なお、厚生労働省が発表している有効求人倍率は、完全失業率と対になったデータでもあるので、あわせて利用してもよい。

④株式価格の推移

代表的な指数には、日経平均とTOPIXがある。日経平均は市場をリードする225社の株価の動きを示す指標

であり最もポピュラーなものとなっている。TOPIXは東京証券取引所の一部上場銘柄全体の指標である。どちらも景気の先行指標として利用されているので、その性質を理解させた上で、利用したい。

⑤日銀短観

日本銀行が年4回発表する企業短期経済観測調査の略称。上場企業や全国の中堅・中小企業を含むアンケート調査をもとに作成されている。企業が景気をどう見ているのかの業況判断などからなっていて、景気動向の判断の有用な資料となる。新聞などでそれをグラフにしたものが掲載されるので、それを利用するとよい。

<アクティビティ2>

コール市場と金利に関して

コール市場は、生徒にとって見えない市場であるが、基本的には一般の市場と同じく需要と供給によって動いている。つまり、資金の必要な銀行に対して、資金が余っている銀行が短期にお金を貸す場であると押さええて活動をすすめたい。

コール市場が重要なのは、現在日本銀行の金融政策がここを舞台としているからである。日本銀行は1995年以来、公開市場操作を中心とする金融調節に移行しているが、その際に、コール市場における無担保コールレート（オーバーナイト物）の水準が重要な目標となっている。日銀は、この金利に誘導目標を設けて、対外的に公表している。なお、本稿執筆段階（平成18年12月）では、政策金利は0.25%となっている。誘導目標は、時期により変化する可能性があるため、授業時にはその変化に注意を払いたい。

アクティビティは、それをモデルにして再現しようとするものである。

コール市場の資金需要と、それぞれの銀行の所持金・国債額とは直接関係ないが、ここでは資金の額が少ない銀行が、資金調達に苦しいと仮定して、生徒に活動させるとよいだろう。また、オペレーションでは、日本銀行に各銀行がもつ当座預金にお金が積み立てられるという、現実のお金の動きそのものを可視化する形になっていることも承知しておきたい。

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

資料

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

資料

資料

●期待される回答例

- 1 例えば、公定歩合を下げる。
- 2 世の中の金利が下がり借金しやすくなるなど。
- 3 日本銀行は市場金利の引き下げを図り、更にゼロ金利政策、量的緩和政策を行った。
- 4 預金準備率操作や、公定歩合操作から、コール市場の金利を誘導するオープンマーケットオペレーションへと変化させた。
- 5 銀行間の短期の資金の貸し借りをを行う金融市場のこと。
- 6 500万円 (400万円+100万円)
- 7 他の銀行からお金を調達しようとする (需要が増える)。金利が上がる。
- 8 貸手 (供給側) の銀行の手持ち資金が増えて余裕ができた時、もしくは借手 (需要側) の銀行の必要度が下がれば、金利は下がる。
- 9 増えた。
- 10 下がる。
- 11 下がる。
- 12 企業は金利が下がったことから設備資金などを借りようとする可能性をもつ。
- 13 景気は上昇する可能性が大きくなる。
- 14 オープンマーケットオペレーション
- 15 金利が下がったら、金融機関に預金をしている家計は損失を受ける。住宅ローンなど借金をしている家計は利益を得る。要は、金利が下がったことによる景気上昇で所得がどれだけ増加するかによって、家計への影響は変化する。金利が上がったときは逆の現象がおきる。

●参考「日本銀行」の金融調節 (<http://www.boj.or.jp/mopo/outline/index.htm> より)

